

学校教育目標	夢 チャレンジ ～かしこく やさしく たくましく～		
a ミッション	学力向上を目指した組織的な授業改善と小中連携の深化	aビジョン	1.主体的・対話的で深い学びを目指す授業改善を通して、児童の「学び合い」を育む学校 2.「3つの宝」を行動規範として児童の心を育てる学校 3.保護者・地域から信頼される学校 -広島県学力向上地域指定校・広島県NIE実践（県独自枠）指定校・尾道市読書活動推進指定校-

尾道市立三成小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案	
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ			
安定した学級経営の維持と向上	「チーム三成小学校」の一員として、学級経営力を高めることを通して、児童の学び意欲を育てる。	信頼される学校づくりを推進するために保護者対応や小中連携を適時に行う。	【保護者連携】 ○保護者アンケートで、「小学校の対応に満足している」と回答している保護者の割合 90%以上 【小中連携】 ○美木中ブロックでの職員間連携の年間回数、のべ20回以上	100%	保護者満足度 80.9%	小中連携 12回	保護者連携 89.9%	小中連携 60%まで達成	B	「小学校の対応に満足している」保護者の割合は、80.9%であり、目標には届かなかった。日々行う保護者との連携において、児童の課題だけではなく、成果や良かった姿などの肯定的な情報を積極的に発信していくようにする。特に、学校の取組に対して不安感を抱えている家庭には、より積極的に丁寧な対応を心がけることで信頼を高めていく。小中連携については、順調に回数を重ねている。夏休み中の研修を含め、2学期以降も計画的に進めていく予定である。	3			・肯定的な回答でない20%の方々に対しては、掘り下げ理由を伺い、取り組んでみてはどうか。	不安や心配事を抱えておられる家庭への積極的な連携を進める。この時に不安の原因や解決策について記録をし、職員間で共有することで、改善を図る。
			【三つの宝の醸成】 ○「三つの宝」の達成度について、教師による4段階評価の得点と、児童による4段階自己評価の得点の合計値 6ポイント以上 （7月 11月）	100%	児童自己評価 3.2 教師評価 2.6 合計 5.8	96%	B	達成度は5.8でB評価としたが、児童は、「三つの宝」を意識して生活していることがわかった。日常生活の中で、教職員全員が児童に意識的に声をかけたり、指導に当たったりすることが重要である。特に、「掃除」と「あいさつ」についての教師の評価が低いため、掃除時間には一緒に掃除をして指導したり、「いつでも・どこでも・だれにでも」あいさつができるように、児童会と連携しながら取組を進めていく予定である。	3			・まずは挨拶を優先して取り組む必要がある。 ・人に言われるからするのではなく、自分の判断で挨拶ができるようになることは、将来につながる重要な力となる。	挨拶については、自分から挨拶することの良さやその必要性を児童に考えさせ、体験させることで主体的に実践できるようにする。 掃除については、掃除用具の使い方を児童集会で示し、より丁寧な掃除ができるように指導する。 時間を守ることは、よくできていることを評価し、継続と徹底を図る。		
			【昨年度からの重点課題】 ○アセス「教師サポート」得点50以上の児童数の割合100%達成 50未満→30人へ	100%	118人 /142人 50未満34人	83%	B	達成度は83%であり、B判定となった。得点50未満の児童は34名で、得点40未満の児童が5名含まれている。学習面や生活面で教師から指導を受ける児童ばかりではなく、学力の面で安定していても自己肯定感が低い児童が増えている傾向がある。これらの児童は「生活満足度」も低いことが多く、家庭生活で課題を抱えていることにも留意する必要がある。また「友人サポート」が高い点は良いことであるが、友達と教え合いができていないからと教師が安心し、教師から必要なサポート（働きかけ）がされていないと感じることのないように留意する必要がある。	3			・教師から子供達への働きかけが重要である。 ・課題であった教師サポートが改善されており、大変良かった。 ・三成の子供達は自分に自信がない子が多いのだろうか、気になるところである。	校内研修で、目標に達していない児童の実態交流を行い、担任だけでなく全教職員で関わり、「児童に伝わるサポート」になるよう努める。また、指導だけでなく普段の会話や活動の中でコミュニケーションの機会を増やし、児童との信頼関係をより深めていく。		
主体的に学び、自分の成長が実感できる児童の育成	指導の徹底と児童の成長の見取り・評価	学級の向上を図るために、授業改善と反復・徹底学習を両立させる。	【組織的な授業改善】 ○教師による授業評価表「学び合い」に関する4段階評価の平均得点3.0以上 →3.5以上 （毎校内研究授業後 年間9回以上） ○学校図書館や新聞を活用した授業研究を、一人1本以上行う。	100%	学び合い 評価 3.5		学び合い 161%	A	学び合う授業づくりに取り組んで、授業評価が3.5ポイントで目標を達成することができた。授業研究をするにあたって、全員で学び合う授業のイメージを共有し、児童が生き生きと学び、友達と学び合うよさが実感できる授業プランが実践できた結果であると考えている。授業研究については、2学期に全員研究授業を行う予定である。	3			・ゲームが盛んな年頃である。家庭と連携して益々の安定と向上に取り組んでほしい。 ・読書の習慣は大人になってからも重要である。今のうちに本を読む楽しさを味わわせてほしい。	引き続き、学校図書館司書教諭と連携して図書館の活用を行ったり、各社の新聞や中国新聞データベースを授業で活用したりすることで、児童の情報活用能力や思考力、表現力の向上を図る。また、児童が主体的で深い学びができるように、図書館の活用と新聞を使った学習の工夫・常態化を図ることで授業改善に努める。	
			【学力】 ○国語科・算数科単元テストの平均得点85.0点以上（1学期・2学期） ○全国学力学習状況調査の課題を校内研修で分析し、補充問題を全校で取り組む。（1人あたり年間30枚以上） ○標準学力検査で対全国平均比100以上の児童の割合 65%以上 （12月）	100%	国語平均得点 85.0 算数平均得点 86.2 学年平均 34.2枚	100%	A	単元テストの平均得点は、国語科85.0点、算数科86.2点で目標を達成することができた。授業や家庭学習で徹底的に反復学習を行い、課題のある児童には個別学習を行ったことが効果的であったと考える。全国学力学習状況調査の本校の課題は、読む力、書く力、情報活用能力、表やグラフを読み取る力であった。1学期から、東書Webシステムのプリント等を積極的に活用し、補充問題に取り組むことができた。	3			・1人1人の課題の把握もよくできているようである。個別指導の教科に取り組んでほしい。	毎日の授業と家庭学習で児童の理解度を確実に見取り、反復・徹底学習を行い学力の向上を図る。モジュールタイムでは、継続して全国学力学習状況調査の課題を克服するための補充問題を重点的に実施し、児童の将来を見据えながら組織的に学力向上に取り組む。		
			○生活習慣の見直しを実行した児童の割合（児童アンケート調査の肯定的評価） 80%以上 →歯みがき：強化週間の結果 →早寝：意識調査の結果	100%	78.9%	79%	B	歯科検診の結果をうけて要治療を必要とする児童へ呼びかけた結果、治療率の割合は76%であった。目標の80%には達していなかったが、家庭と連携し、概ねの児童が歯の治療を行う事ができた。今後も引き続き歯みがきについて呼びかけ、虫歯ゼロを目指していきたい。	2	1		・保護者の生活習慣の乱れが子どもにも影響していると考えられる。家庭にしっかり働きかけてほしい。	児童には、食後の歯みがきを徹底するよう引き続き呼びかけていく。治療しない家庭については、学年・学級などの共通した傾向は見られなかったため、個々の家庭に継続して啓発に取り組む。		
		○月別重点課題《握力・水泳・持久走・縄跳びなど》で設定基準を達成した児童の割合 80%以上	100%	水泳 82% 握力 78.6%		水泳 102.5% 握力 98.2%	A	体育委員会の児童と連携することで、多くの児童が握力に関心を持ち、取組を行う姿が見られた。また、体力テストの昨年度の記録や昨年の学年の記録と比べてみても数値が向上した。しかし、各学年の取組状況を見ると、全組に参加していない児童もいることがわかった。今後、取組が取り組めるように手立てを工夫していく必要がある。	3			・鉄棒、登り棒などの遊具の活用を促進すると良い。 ・運動会では頑張る姿が見えた。応援している。	児童の実態に合わせた設定基準（児童にとっての目標）を見直す必要がある。また、体育委員会と連携し、積極的に取り組む児童を放送で発表したり、表彰を行ったりして、児童の意欲付けを行っていくことで、改善を図る。		

【外部評価】
イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。